

令和5年度 小児医学研究振興財団 web 市民公開講座
子どものSNS利用状況と事例紹介

大人も子どもも“デジタル・シティズンシップ”を身につけよう！
～ 子どもの健やかな発達・成長と未来のために ～

阪神淡路大震災を経て携帯電話が、東日本大震災を経てSNS活用が一気に広がった日本。そして、コロナ禍で飛躍的に進んだデジタル化の波は、社会環境や生活環境だけではなく子どもたちの学習環境にも大きな変化をもたらしました。小学生からタブレット端末を使い、プログラミングの授業を受け、大学入学共通テストに新科目『情報Ⅰ』の出題が決定（2025年度から）等々、大人には未経験のことばかりです。

デジタルが生活に不可欠なものとなり、世界中がネットワークでつながっている時代。日々生まれる新たなサービスや技術に「この使い方は？」「このトラブルの対処法は？」「この課題の解決策は？」とケースごとのマニュアルを求めているは全く前に進めません。過去の経験、さまざまな情報、人との会話や議論などで得られたことから熟考・判断し、新たな事象に対応できる力が、年齢や立場を問わず必要とされています。こうした「デジタル技術の利用を通じて社会に積極的に関わり参加する能力や行動規範」のことを『デジタル・シティズンシップ』といいます。

近い将来、今ある仕事の約49%をAIやロボットが担えるようになるという予測があります。未来の大人を今育てている私たちにできることは、デジタルやネットが得意でも苦手でも、現状を直視し、正しく理解し正しく怖がり、上から目線ではなく子どもたちと同じ目線で前を見据え、寄り添いながら共に歩みを進めることに他なりません。

本講座では、世代感覚の違い、権利等の法律、人やネットや経済の特性、危機管理といったいくつかの切り口から、その手法を探っていきます。独自の情報モラル教育から国際標準のデジタル・シティズンシップ教育に舵を切った日本、まずは一緒に考えながらその第一歩を踏み出してみましよう！

ネット教育アナリスト
尾花 紀子

【略歴】

1984年日本アイ・ビー・エム株式会社入社。コンサルティング、経営者向け ICT 戦略研修講師、人材育成、プロバイダ事業、教育ソフト監修等を手がけ、2005年フリーに。

現在は、インターネット教育の専門家として、行政機関の各種委員を務めると共に、子どもから社会人・シニア層まで幅広い対象への学びやアドバイスを提供している。

教育機関やPTA団体・学校からの要請を受けて講演・セミナーを全国で行いながら、総務省『インターネット トラブル事例集』を始めとする教育コンテンツの執筆・指導・監修も手がけている。また、SNS相談体制づくりに関するコンサルティングや助言も行っており、日本のインターネット教育や青少年のためのインターネット環境整備に幅広く寄与している。＜情報社会学会会員＞

[委員・役職等]

- ・総務省：青少年の ICT 活用のためのリテラシー向上に関するワーキンググループ 委員
- ・こども家庭庁：青少年インターネット利用環境実態調査 企画分析会議 委員
- ・一般社団法人安心ネットづくり促進協議会：普及啓発広報委員会 副委員長
- ・独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）：専門委員 ……他

[受賞歴]

- ・第14回「情報セキュリティ文化賞」 （2018年2月）